

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、
するなり。その年の、十二月の、二十日あまり一日
の日の、戌の時に門出す。そのあよし、いいさかかに、も
のに書きつく。

ある人、Ⅰ県の四年五年果てて、例のことども、うみ
なし終へて、Ⅱ解由など取りて、住む館より出でて、船
に乗るべき所へ渡る。かれこれ、知る知らぬ、送りす。
年ごろ、よくえくらべつる人々なむ、別れがたく思ひ
て、日しきりに、とかくしつづのののしるうちに、夜更
けぬ。

① Ⅰ「県」、Ⅱ「解由」の読みをひらがなで答えよ。

② 次の語句の意味を答えなさい。

あ：よし

い：いいさかかに

う：みな

え：くらべつる人々

お：のしる

③ 「男もすなる日記」とあるが、当時、男性が書く日記は、一般にどのような文
字・文体で書かれていたか。

④ 「女もしてみむとて」を現代語訳しなさい。

⑤ 「男もすなる日記」の「なる」と、「女もしてみむとてするなり」の「なり」につい
て、それぞれ助動詞の意味を答えなさい。

⑥ 「その年」「ある人」とあるように、年や人物を明示しない書き方には、どの
ような効果があるか。冒頭の「女」との関係を踏まえて説明しなさい。

二十二日に、和泉の国までと、平らかに願立つ。藤原のときぞね、あ船路なれど、馬のはなむけす。上・中・下、酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、あざれあへり。

二十三日。う八木のやすのりといふ人あり。この人、国に必ずしも言ひ使ふ者にもあらざなり。これぞ、たはしきやうにて、馬のはなむけしたる。I守柄にやあらむ、国人の心の常として、「今は。」とて見えざるを、心ある者は、恥ぢずになむ来ける。これは、ものによりてほむるにしもあらず。

二十四日。II講師、馬のはなむけしに出でませり。ありとある上・下、童まで酔ひしれて、一文字をだに知らぬ者、しが足は十文字に踏みてぞ遊ぶ。

⑦ I「守柄」、II「講師」の読みをひらがなで答えよ。

⑧ あ「船路なれど、馬のはなむけす」を現代語訳せよ。

⑨ い「あやし／＼」とあるが、その理由と表現について説明した次の文章について、空欄を埋めよ。

「あざ／＼」という言葉に、人々が「あ／＼」という意味と、魚などが「い／＼」という意味を重ねている。(う／＼)には物が腐るのを防ぐ働きがあるのに、それを含む海のほとりで、人々がまるで腐るかのようにな／＼け合っている。その様子を「いとあやし／＼、つまり」「たいそう(え／＼)」と表現している(う／＼)に、言葉の面白／＼がある。

⑩ 「ハ木のやすのり」はどのような人か。

⑪ 「守柄にやあらむ」を現代語訳せよ。

⑫ 「あら／＼なり、」見／＼／＼なる」に共通する文法について説明せよ。

⑬ 「心ある者」とは、(う／＼)ではどのような人か。前後の内容に即して説明しなさい。

- ① I「県」:あがた II「解由」:げゆ
- ② あ「よし」:いきやつ。事情。い「いやすかに」:少し。う「みな」:すべて。
え「くらべつる人々」:親しく付き合ってきた人々
お「ののしる」:大声で騒ぐ。
- ③ 漢字を用いた漢文体。
- ④ 女の私も書いてみようと思って
- ⑤ 「男もする日記」の「伝聞の助動詞」なり「の連体形
「女もしてみむとてするなり」:断定の助動詞「なり」の終止形
- ⑥ 年や人物をほかすことで、実際の作者である男性の紀貫之ではなく、
女性が日記を書いているという設定を保つ効果がある。
- ⑦ I「守柄」:かみがら II「講師」:こうじ
- ⑧ 船旅ではあるけれど、旅立つ人のために行う送別の宴をする。
- ⑨ あ:ふざける い:腐る う:塩 え:不思議だ
- ⑩ 国司が必ずしも命令して使うことのできる立場にはない人。
- ⑪ 国司(自分)の人柄によるのであろうか。(↑自賛している。)
- ⑫ どちらも、打消の助動詞「ず」の連体形「ざる」が撥音便で「ざん」となり、
その「ん」が省略されている。
「あひざねなる」↓「あひざんなり」↓「あひざな」
「見えざるなる」↓「見えざんなる」↓「見えぞなる」
- ⑬ 国司が任期を終えても態度を変えず、送別の品を届けるなど、
思いやりや誠意を示す人。